

再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：下保 修

事業名 いっばんこくどう 一般国道463号 越谷～浦和バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 さいたま市																			
起終点 埼玉県越谷市神明町地先 埼玉県さいたま市緑区中尾地先	延長 9.1km																				
事業概要 一般国道463号は埼玉県越谷市から同県入間市に至る延長58.1kmの主要幹線道路である。当該区間は東北縦貫自動車道や一般国道122号と交差し、浦和ICや埼玉高速鉄道浦和美園駅へのアクセス強化を図るため計画されたものである。また、平行する旧道の463号と国道122号の大門交差点では慢性的な渋滞が発生しており、本路線に自動車交通の転化を図り、渋滞を緩和するものである。																					
H7年度事業化	H4年度都市計画決定	H7年度用地着手																			
		H7年度工事着手																			
全体事業費	277億円	事業進捗率 86.6%																			
計画交通量	38,700台/日	供用済延長 9.1km																			
費用対効果分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">B/C (未完成区間全体)</td> <td style="width: 10%;">5.0</td> <td style="width: 20%;">総費用 (残事業)/未成区間全体</td> <td style="width: 10%;">25億円/41億円</td> <td style="width: 20%;">総便益 (残事業)/未成区間全体</td> <td style="width: 10%;">207億円/207億円</td> <td rowspan="3" style="width: 10%;">基準年 平成19年</td> </tr> <tr> <td>(残事業)</td> <td>8.3</td> <td>改築費：24/40億円</td> <td>維持管理費：0.94/0.94億円</td> <td>走行時間短縮便益：184/184億円</td> <td>走行経費減少便益：20/20億円</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>交通事故減少便益：2.6/2.6億円</td> <td></td> </tr> </table>	B/C (未完成区間全体)	5.0	総費用 (残事業)/未成区間全体	25億円/41億円	総便益 (残事業)/未成区間全体	207億円/207億円	基準年 平成19年	(残事業)	8.3	改築費：24/40億円	維持管理費：0.94/0.94億円	走行時間短縮便益：184/184億円	走行経費減少便益：20/20億円					交通事故減少便益：2.6/2.6億円		
B/C (未完成区間全体)	5.0	総費用 (残事業)/未成区間全体	25億円/41億円	総便益 (残事業)/未成区間全体	207億円/207億円	基準年 平成19年															
(残事業)	8.3	改築費：24/40億円	維持管理費：0.94/0.94億円	走行時間短縮便益：184/184億円	走行経費減少便益：20/20億円																
				交通事故減少便益：2.6/2.6億円																	
感度分析の結果																					
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（現道等の年間渋滞損失時間及び削減率） ・都市の再生（市街地再開発、区画整理等の沿道のまちづくりと連携あり） 他7項目に該当																					
関係する地方公共団体等の意見 越谷市域内については供用開始しており意見なし																					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 平行して進められている浦和東部第二土地区画整理事業区域に大規模商業施設が完成し、周辺の交通渋滞が深刻化している。																					
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成13年度のワールドカップ開催にあわせ全線4車線で供用されているが、一部ランプが未供用である。																					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 当該区間の用地買収は概ね完了しており、平成25年度に完成に向け工事を推進する。																					
施設の構造や工法の変更等 工事施工にあたっては、構造物のプレキャスト化による工期短縮、再生材の活用によりコスト削減を図る。																					
対応方針	事業継続																				
対応方針決定の理由	以上の状況を踏まえ、当初の事業の必要性・重要性は変わらないと考える。																				
事業概要図																					
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 50%;">凡</th> <th style="width: 50%;">例</th> </tr> <tr> <td>——</td> <td>供用中</td> </tr> <tr> <td>■■■■</td> <td>事業中</td> </tr> <tr> <td>▨▨▨▨</td> <td>再評価箇所</td> </tr> <tr> <td>▨▨▨▨</td> <td>うち供用中</td> </tr> </table>	凡	例	——	供用中	■■■■	事業中	▨▨▨▨	再評価箇所	▨▨▨▨	うち供用中									
凡	例																				
——	供用中																				
■■■■	事業中																				
▨▨▨▨	再評価箇所																				
▨▨▨▨	うち供用中																				

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。